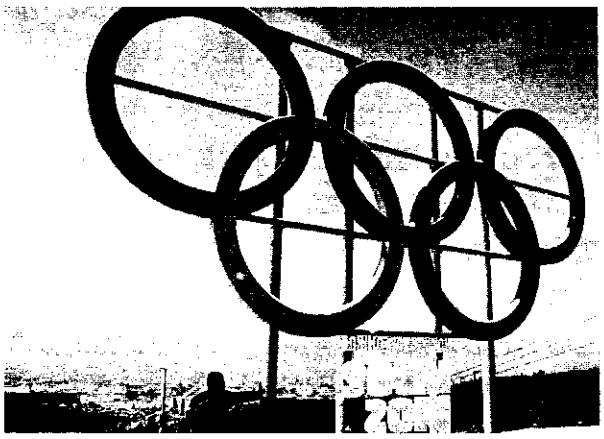
から与えられるようです。何せ、ロシア連邦政府は、子供の教育に対しては約80％以上お金をかけるとのことです。（こりゃーすごいナ～）

将来はオリンピック選手か！

また、サハリンの子供達は、ロシア国内への大会や韓国などへの遠征大会に積極的に参加して、技術のレベルアップを図っております。

さらに、近年はアメリカなどから元オリンピック選手をコーチとして招聘し、指導者や子供達に技術指導を活発に行っているとのことです。

次回、韓国で開催される冬季オリンピック大会では、サハリン出身の選手が出場することは夢ではなく、実現化されるものと強く感じてまいりました。サハリンのスキー学校も、そこを目標に現在、積極的に取り組んでいるようです。



2018年平昌オリンピックの看板

さて、私こと、この度２月にサハリンへプライベートスキー旅行に行って参りました。

何度も公務では訪れているサハリンですが、７年かけてサハリン州のスキー学校関係者とも人脈を築き上げて、ようやく実現した３泊４日の一人旅です。

稚内から都市間バスを利用して札幌へ移動し、いざ、千歳空港からユジノサハリンスク空港へ約１時間程度のフライトでサハリンに到着です。

ただし、今回は新千歳空港午後８時50分発で、ユジノサハリンスク空港午前０時到着（日本との時差は２時間）し、入国手続きを行い、ホテルに入ったのが午前１時前でした。

本来は、新千歳空港午後６時20分発の予定でしたが、ロシア流の都合により、突然出発時間が変更され、－20度の真夜中のユジノサハリンスク空港に降り立ち、ようやくホテルにチェックインとなった次第です。

翌日は、午前10時にサハリン州立アルペンスキー学校校長と再会し、ゴンドラで一気に－20度の山頂へ上がり、2500mのコングコースを二人で一気に２本滑りました。このコースは二つのコースに分かれており、起伏のあるコースからスキーヤー、ボーダーが多く滑っておりました。このコースは人気があり、Ｔバーリフト乗り場の山麓には、沢山のリフト待ちのスキーヤー、ボーダーが長蛇の列で乗車を待っておりました。日本では最近あまり見られない光景であり、1980年代後半の日本のスキーブームのようでした。

リフトに並ぶスキー客